

科目名	解剖生理学 I		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (20 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人体の正常な構造と機能の理解を深める。</p> <p>目標: 1 生命を維持する構造と機能の理解を深める。 2 生体の内部環境の恒常性を維持する機能の理解を深める。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 栄養の消化と吸収	4	1 口・咽頭・食道の構造と機能 2 腹部消化管の構造と機能 3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4 腹膜の機能		講義
2 呼吸と血液のはたらき	4	1 呼吸器の構造 2 呼吸の調節 3 血液の機能		講義
	2	腹部の聴診・打診 胸部の聴診(呼吸音の聴診)		演習
3 血液の循環とその調節	4	1 循環器系の構成 2 心臓の構造 3 心臓の拍出機能 4 末梢循環系の構造 5 血液の循環の調節 6 リンパとリンパ管 7 体表から触知できる動脈と静脈		講義
	2	体表から触知できる動脈と静脈 胸部の聴診(心音の聴診)		演習
4 体液の調節と尿の生成及び内臓機能の調節	3	1 腎臓 2 排尿路 3 体液の調節 4 自律神経による調節 5 内分泌系による調節 6 全身の内分泌腺と内分泌細胞 7 ホルモン分泌の調節		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 解剖トレーニングノート (医学教育出版社) ワークアウト解剖生理ブック (サイオ出版) 目で見るとからだのメカニズム (医学書院)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・疾病治療論 I の理解に必要な基礎科目である。十分に予習のうえ、授業に臨むこと。 ・なお、授業の後には復習しておくこと。 ・また演習は、基礎看護学:フィジカルアセスメント・臨床判断に通ずるため、積極的な参加姿勢を望む。			

科目名	解剖生理学Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人体の正常な構造と機能の理解を深める。</p> <p>目標: 1 体表からみた人体の構造と機能の理解を深める。 2 人体の活動を統合する構造と機能の理解を深める。 3 外部環境から生体を防御する構造と機能の理解を深める。 4 種を保存する構造と機能及び老化のしくみの理解を深める。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 からだの 支持と運動	8 (6)	1 骨格とはどのようなものか 2 骨の連結 3 骨格筋 4 体幹の骨格と筋 5 上肢の骨格と筋 6 下肢の骨格と筋 7 頭頸部の骨格と筋 8 筋の収縮 9 体表から触知できる骨格部分と筋		講義
	(2)	骨・関節の動き、関節の屈曲・伸展に伴う筋の収縮・伸展 体表から触知できる骨格部分と大きな筋(名称・動き) 筋・骨格系のフィジカリアメント		演習
2 情報の受 容と処理	10 (4)	1 神経系の構造と機能 2 脊髄と脳神経 3 脳の高次機能		講義
	(4)	4 運動機能と下行伝導路 5 感覚機能と上行伝導路 6 眼の構造と視覚 7 耳の構造と聴覚・平衡覚 8 味覚と嗅覚 9 疼痛(痛み)		講義
	(2)	知覚伝導と筋収縮 感覚器・神経系のフィジカリアメント		演習
3 外部環境 からの防御	2	1 皮膚の構造と機能 2 生体の防御機構 3 体温とその調節		講義
4 生殖・発生 と老化の仕組 み	4	1 男性生殖器 2 女性生殖器 3 受精と胎児の発生 4 成長と老化		講義
試験	1			

評価方法	筆記試験
必須資料 (テキスト)	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院)</p> <p>解剖トレーニングノート (医学教育出版社)</p> <p>ワークアウト解剖生理ブック (サイオ出版)</p> <p>目で見るとからだのメカニズム (医学書院)</p>
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。
履修上の 留意事項	<p>・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの理解に必要な基礎科目である。十分に予習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・なお、授業の後には復習しておくこと。</p> <p>・また演習は、基礎看護学:フィジカルアセスメント・臨床判断に通ずるため、積極的な参加姿勢を望む。</p>

科目名	生化学		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人間の生命現象の基本となる生体を構成する物質とその代謝の理解を深める。</p> <p>目標: 1 生体を構成する物質の細胞内における合成と分解を理解できる。 2 遺伝情報の伝達と調節を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 生化学の基礎と生体構成物質	4	1 生体をつくる元素 2 酸と塩基 3 生体を構成する物質 (1) 糖質 (2) 脂質 (3) タンパク質 (4) 核酸 (5) 水と無機質 (6) 血液と尿 (7) ホルモンと生理活性物質		講義
2 生体内の物質代謝	8	1 代謝のあらまし 2 酵素 3 ビタミンと補酵素 4 物質の代謝 (1) 糖質代謝 (2) 脂質代謝 (3) タンパク質代謝 (4) 核酸代謝 (5) ポルフィリン代謝 (6) 代謝異常		講義
3 個体間の形質伝達としての遺伝	2	1 遺伝情報 2 複製・転写・翻訳 3 DNAの損傷と修復		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 (メディカ出版)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・人間のからだの理解(解剖生理学)や看護栄養学につながる科目である。予習をして臨むこと。 ・また、授業の後は復習をしておくこと。			